

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際予備審査機関）

出願人代理人

小笠原 史朗

様

PCT

あて名

〒 564-0053

大阪府吹田市江の木町3番11号
第3ロンヂエビル

国際予備審査報告の送付の通知書

(法施行規則第57条)
(PCT規則71.1)発送日
(日.月.年)

29.6.2004

出願人又は代理人
の書類記号

PCT03-091

重要な通知

国際出願番号

PCT/JP03/03927

国際出願日

(日.月.年) 28.03.2003

優先日

(日.月.年) 01.04.2002

出願人（氏名又は名称）

松下電器産業株式会社

1. 国際予備審査機関は、この国際出願に関して国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、それらをこの送付書とともに送付することを、出願人に通知する。
 2. 国際予備審査報告及び付属書類が作成されている場合には、すべての選択官庁に通知するために、それらの写しを国際事務局に送付する。
 3. 選択官庁から要求があったときは、国際事務局は国際予備審査報告（付属書類を除く）の英語の翻訳文を作成し、それをその選択官庁に送付する。
4. 注意

出願人は、各選択官庁に対し優先日から3ヶ月以内に（官庁によってはもっと遅く）所定の手続（翻訳文の提出及び国内手数料の支払い）をしなければならない（PCT39条（1））（様式PCT/IB/301とともに国際事務局から送付された注を参照）。

国際出願の翻訳文が選択官庁に提出された場合には、その翻訳文は、国際予備審査報告の付属書類の翻訳文を含まなければならない。

この翻訳文を作成し、関係する選択官庁に直接送付するのは出願人の責任である。

選択官庁が適用する期間及び要件の詳細については、PCT出願人の手引き第II巻を参照すること。

名称及びあて名 日本国特許庁（IPEA/JP） 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号
--

権限のある職員 特許庁長官

5P 9468

電話番号 03-3581-1101 内線 3580

注 意

1. 文献の写しの請求について

国際予備審査報告に記載された文献であって国際調査報告に記載されていない文献の複写

特許庁にこれらの引用文献の写しを請求することができますが、独立行政法人工業所有権総合情報館（特許庁庁舎2階）で公報類の閲覧・複写および公報以外の文献複写等の取り扱いをしています。

[担当及び照会先]

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目4番3号（特許庁庁舎2階）
独立行政法人工業所有権総合情報館

【公 報 類】 閲覧部 TEL 03-3581-1101 内線3811～2

【公報以外】 資料部 TEL 03-3581-1101 内線3831～3

また、（財）日本特許情報機構でも取り扱いをしています。

これらの引用文献の複写を請求する場合は下記の点に注意してください。

[申込方法]

(1) 特許（実用新案・意匠）公報については、下記の点を明記してください。

○特許・実用新案及び意匠の種類

○出願公告又は出願公開の年次及び番号（又は特許番号、登録番号）

○必要部数

(2) 公報以外の文献の場合は、下記の点に注意してください。

○国際予備審査報告の写しを添付してください（返却します）。

[申込み及び照会先]

〒135-0016 東京都江東区東陽4-1-7 佐藤ビル

財団法人 日本特許情報機構 情報処理部業務課

TEL 03-3508-2313

注) 特許庁に対して文献の写しの請求をすることができる期間は、国際出願日から7年です。

2. 各選択官庁に対し、国際出願の写し（既に国際事務局から送達されている場合は除く）及びその所定の翻訳文を提出し、国内手数料を支払うことが必要となります。その期限については各国ごとに異なりますので注意してください。（条約第22条、第39条及び第64条(2)(a)(i)参照）

特許協力条約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PCT03-091	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知（様式PCT/IPEA/416）を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/03927	国際出願日 (日.月.年) 28.03.2003	優先日 (日.月.年) 01.04.2002
国際特許分類 (IPC) Int. C17 H04N7/01		
出願人（氏名又は名称） 松下電器産業株式会社		

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。

2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。

- この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関に対して訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
- この附属書類は、全部で ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- I 国際予備審査報告の基礎
- II 優先権
- III 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV 発明の単一性の欠如
- V PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ある種の引用文献
- VII 国際出願の不備
- VIII 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 12.09.2003	国際予備審査報告を作成した日 14.06.2004
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官（権限のある職員） 畠中 高行
	5P 9468
	電話番号 03-3581-1101 内線 3580

国際予備審査報告

国際出願番号 PCT/JP03/03927

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。PCT規則70.16, 70.17)

 出願時の国際出願書類

明細書 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書 第 _____ ページ、付の書簡と共に提出されたもの

請求の範囲 第 _____ 項、出願時に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 請求の範囲 第 _____ 項、付の書簡と共に提出されたもの

図面 第 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 図面 第 _____ ページ/図、付の書簡と共に提出されたもの

明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、出願時に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である_____語である。

国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
 PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

この国際出願に含まれる書面による配列表
 この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記録した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

明細書 第 _____ ページ
 請求の範囲 第 _____ 項
 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c)) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならず、本報告に添付する。)

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条（PCT35条(2)）に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1 - 1 4 請求の範囲	有 無
進歩性 (I S)	請求の範囲 5 - 7, 11 - 14 請求の範囲 1 - 4, 8 - 10	有 無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1 - 1 4 請求の範囲	有 無

2. 文献及び説明 (PCT規則70.7)

請求の範囲 1 - 4, 8 - 1 0

文献1 : J P 2 0 0 1 - 1 6 9 2 5 2 A (日本ビクター株式会社)
2 0 0 1 . 0 6 . 2 2 , 全文, 第1 - 9 図

には、入力されるインターレース信号の各フィールドを、フィールド間補間およびフィールド内補間の何れの方法でフレーム合成してプログレシブ信号に変換すべきかを決定するフィールド補間方式決定装置であつて、前記入力インターレース信号から生成したフィールド内補間画素と、当該インターレース信号の前後のフィールド内の画素とに基づいて画素レベル差分をそれぞれ検出する画素レベル差分検出手段と、前記画素レベル差分に基づいて、前記入力インターレース信号から生成したフィールド内補間画素と前記入力インターレース信号の前後のフィールド内の画素との相関を検出してマッチング係数と動き検出係数を生成するフィールド相関検出手段と、動き検出係数に基づいて、フィールド間補間方式とフィールド内補間方式とのどちらの補間方式を行うかを決定する補間方式決定手段とを備えるフィールド補間方式決定装置が記載されている。

文献2 : J P 6 - 1 0 5 2 9 2 A (ドイチエ トムソン・プラント ゲゼル
シャフト ミツト ベシュレンクテル ハフツング)
1 9 9 4 . 0 4 . 1 5 , 全文, 第1 - 6 図

には、画素レベル差分を検出し、前記画素レベル差分に基づいて、N - 1 個のフィールド間相関判定信号を出力し、前記N - 1 個のフィールド間相関判定信号のパターンに基づいて、N 個の連続するフィールドのそれぞれ連続する2つが同一フレームから生成されたかを判定するフィールド/フレーム相関判定手段が記載されている。

そして、文献1に記載されたフィールド間補間方式とフィールド内補間方式とのどちらの補間方式を行つかを決定するために使用する情報を、文献2に記載されたフィールド/フレーム相関判定手段とすることは、当該技術分野の専門家にとっては自明のものである。

請求の範囲 5

同一フレームから生成されたと判定される場合は1カウントアップし、異なるフレームから生成されたと判定される場合はカウント値をリセットし、何れとも判定されない場合はカウント値を保持するカウンタ手段は、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献3のいずれにも記載も示唆もされていない。

VII. 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲1の「異なるフレームから生成された判断される場合には」は「異なるフレームから生成されたと判断される場合には」の誤記である。

請求の範囲5の「何れとも判定されない場合は」は「何れとも判定されない場合」の誤記である。

請求の範囲13の「請求項1にフィールド補間方式決定装置」は「請求項1に記載のフィールド補間方式決定装置」の誤記である。

請求項14の「前期論理積回路」は「前記論理積回路」の誤記である。

補充欄（いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること）

第 V.2 欄の続き

請求の範囲 6, 7

文献 3 : JP 9-322126 A (日本放送協会)
1997.12.12, 全文, 第1-13図

には、当該技術分野における一般的技術水準を示す文献であって、2-3 プルダウンと 2-2 プルダウンタイミングを、画素差分絶対値のフィールド内平均値を 2-3 プルダウンの場合は 2 フィールド間で、2-2 プルダウンの場合は 1 フィールド間で算出し、当該画素差分絶対値のフィールド内平均値の最新値が、2-3 プルダウンの場合は過去 5 フィールドで、2-2 プルダウンの場合は過去 2 フィールドで最小になり、かつ、当該最小になる場合が、2-3 プルダウンの場合は 5 フィールド前でも生じ、2-2 プルダウンの場合は 2 フィールド前でも生じることにより検出する技術が記載されているが、2-3 プルダウンの場合、6 フィールド以上のフィールド間画素差分値のパターンを検出することによって判別すること、2-2 プルダウンの場合、5 フィールド以上のフィールド間画素差分値のパターンを検出することによって判別することは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献 3 のいずれにも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 11, 12

フィールド間差違判定手段が、さらに、1 フィールド遅延入力インターレース信号が表す画像の明るさを表す信号レベルを検出する信号レベル検出手段と、前記信号レベルに基づいて、第 1 の閾値を変化させるか、または 第 2 の閾値を変化させることは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献 3 のいずれにも記載も示唆もされていない。

請求の範囲 13, 14

フィールド識別信号を使用してフィールド間差違判定を行うことは、国際調査報告で列記した文献、および見解書で新たに引用した文献 3 のいずれにも記載も示唆もされていない。